

今回は芝山方面、第一日目に  
参加したことと思ひ云すまことに  
憶い起して書き並べる。



井ノ酒  
郷土研究会報

第7号  
昭53.6.27  
行  
酒々井町郷土研究会總務部



老武人（姬塚古墳出土）

芝山仁玉尊  
芝山はくわ博物館



四  
九

本堂の軒端にありて花咲ケる  
辛夷の立ちて牙之増す古刹

考ふ事もせらむることは昔の一  
て人々は必然的に心の安らぎを信仰の信  
に求ふるのでなかろうか、神仏の  
加護が唯一の救いであつたのかもし  
れない。無病(災厄)を祈り、商売繁  
昌を祈り、百里の道と遠しとせず、  
一念発起參詣に赴いた。その中に  
は村の代表も、講中の代表もあつた。  
はづだ。宿願の参詣をするまでして、  
いと済むやかなか考時の人々の思  
いを満ちがら。終筆。

元酒々井田本店前に在つた  
芝山仁王道の道標が前庭に放  
置されてゐる。いつ誰れが  
と人々口にいはがら見いだ。  
複雑な思い胸に残る。

この後須谷のいだれ桜を見学。あまりにもみごとに美しい桜に感激した。(感動の声のみ)

曰蓮宗の修業道場といふ境内には老杉がううそうと繁り、夏尚涼しの感。悟りを開くには斯る環境が必要だつたのかむ疑れない。

飯高櫻林

和銅二年聖武天皇の御代に西宮の祈禱をして處、満願の日に一頭の龜が現われ、七日七夜の大雨と降らし、その龜の身体が三つに裂けて、頭の落ちて所が柴町の龍角寺、腹の落ちて六所が印旛村の竜腹寺、尾の落ちて所が竜尾寺。正にスケールの大きい話で、縁起としては抜群の話である。島と島ことをひとまとめたが、いにしへに、という三人伝説にでも通ずるものがあり、思抜きになる話。

竜尾寺

昭和53年6月27日(火)



## 高橋さんのがトップです。

人口急増の最近の酒々井、いろいろと珍らしい姓も多くみうけられるようです。酒々井町にはどんな姓の分布があるだろ？

## 酒々井町姓氏調べ

昭和50年末住民台帳による  
戸数 2,155戸について  
町史編さん室調べ

1	51 (内)	橋	14	18 (内)	本井	鶴	27	14 (内)	鶴
2	36	高	15	18	島田	サ	28	14	サ
3	36	鈴	16	17	藤原	大	29	14	大
4	34	音	17	17	木佐	清	30	14	清
5	32	京	18	17	佐助	小	31	13	小
6	31	伊	19	16	筋石	山	32	13	山
7	26	福	20	16	浪	大	33	12	大
8	25	木	21	16	林	成	34	12	成
9	24	相	22	16	川	小	35	12	小
10	23	青	23	15		吉	36	12	吉
11	21	綿	24	15		山	37	11	山
12	20	原	25	15		岡	38	11	岡
13	18	安	26	14		和	39	10	和

長い歴史とももつてゐる酒々井町ですから、各部落には定着した姓がたくさんあります。例えば「成毛」といえば墨区、竹尾は柏木区、というように姓によって出身地が判ります。

次の姓と云ななどは、300年以上定着していると推定されます。

(酒々井・下台) 青柳、大谷、島田、鶴岡、中台、筋、深山、

(上本・本佐倉) 川島、外山、小島、越川、金子、石渡、鈴木

(馬橋) 子安、菅原、加藤、飯沼、小云

(墨) 宗島、高崎、成毛、朝増、青藤、藤崎、清水

(尾上) 京增、門倉、綿貫、相川

(飯積) 藤川、梅沢、鈴木、藤原

(中川) 関田、青木、伊藤、木内、石渡

(上岩橋) 木村、福田、小坂、高橋、石井、綿貫、佐瀬

(柏木) 相京、竹尾

(下岩橋) 宮野、高橋、河島

(伊藤) 吉岡、梅井、青藤、宮田

(伊藤新田) 寒郡、宮野、福田

1番多い高橋姓は51戸  
酒々井、下岩橋に多く  
その他他の区にも散らば  
て断然トップです。

次に、鈴木姓は酒々井  
青藤姓は墨区に  
まとまっています。

京増姓24戸の内尾上に19  
と集中しています。

伊藤姓は中川に多く  
福田・木村姓は上岩橋  
にまとまっています。

相京姓は柏木に、青木  
姓は中川に多数としめ  
ています。

桜井姓は普遍的な姓の  
為、各区に散っています。

東酒々井は、全国に出身地と  
持つ方々の入居で、最近急激に増  
加した同地であり、姓が  
多彩です。422戸  
中、佐藤姓が最も多く、あとは  
同姓で4戸以下でした  
又めずらしい姓、読み  
づらい姓もあり、種類  
の多いのが特色といえ  
ましょう。

調査伊藤さん  
の回室にいた  
難うございました。  
町史編纂に  
参りました。



和田汀柳歌集  
読みで  
(毎思出より一首)  
妻の咳さえ母に似て聞かゆ  
さきのことなど思ひ思はず  
病ひ吾子を背負ひて医師にゆ  
妻を送り、まる遠き猶妻  
(新万葉集登載歌)

酒々井の人おされた歌集です  
といって、今本に目を通したのは、春  
まだ寒蕩でした。著者の御  
字真にはもちろん見覚えもなか  
たのですが、「和田章」という御  
本名に……いつか病院で、一すと  
中國へ不自由な様子で空気が  
診察券を三ツ袋に入れ、太  
事そうにれ入れにしまって、いら  
ーにあの多すでは……と思ひ  
云々され、この歌集が和田さん  
の死後記念に所令息が手に  
より出版され、それを喜びながら  
うなぐうちにいたときまことに  
と聞き、何をおしおせな御  
方と胸熱く思う思ひで、揮  
讀させていたときまことに  
平易な詠風の中に、土の匂  
の素朴な生活の歌、労働の  
歌、その生活環境のきびしさ  
のどかさ、又何ともも家族の  
愛情、心遣いが湧きあふ歌  
います。最後の「岩橋節」  
小さく声を出して唄ひながら聴ん  
でいる自分に気付く  
心の底から郷土を愛し、情  
いはいの生きざまとほほん  
させてこの歌集が遺されたこ  
とに心と動かされました。  
(11)

「酒々井の人おされた歌集です  
といって、今本に目を通したのは、春  
まだ寒蕩でした。著者の御  
字真にはもちろん見覚えもなか  
たのですが、「和田章」という御  
本名に……いつか病院で、一すと  
中國へ不自由な様子で空気が  
診察券を三ツ袋に入れ、太  
事そうにれ入れにしまって、いら  
ーにあの多すでは……と思ひ  
云々され、この歌集が和田さん  
の死後記念に所令息が手に  
より出版され、それを喜びながら  
うなぐうちにいたときまことに  
と聞き、何をおしおせな御  
方と胸熱く思う思ひで、揮  
讀させていたときまことに  
平易な詠風の中に、土の匂  
の素朴な生活の歌、労働の  
歌、その生活環境のきびしさ  
のどかさ、又何ともも家族の  
愛情、心遣いが湧きあふ歌  
います。最後の「岩橋節」  
小さく声を出して唄ひながら聴ん  
でいる自分に気付く  
心の底から郷土を愛し、情  
いはいの生きざまとほほん  
させてこの歌集が遺されたこ  
とに心と動かされました。  
(11)

昭和53年6月27日(火)

(取入)	参 加 費	63,000	(1000 x 63)
	会員租金	7,620	
		70,620	
(支出)			
手	当 代	26,800	(67 x 400)
バ	ス 代	16,000	
裏	子 代	17,000	(68 x 250)
入	館 料	5,670	(63 x 90)
拝	館 料(漫料)	3,150	(63 x 50)
拝	館 料(健)	2,000	
		70,620	

以上会計報告いたします。(翻川)

鄉土研究

○四月二十九日  
山菜を食べる

青年研修所にて開催、講師は相京  
会長・時々沖田さん木内さんべテラ  
ンに助言と求めテ、テキストは青柳  
家所蔵の「佐倉御城御代々の覚し」。  
美濃判十七枚のテキスト、難解な古  
文書に取りくみたつぱり二時間余、  
初回九ページと進み二回の學習会で  
無事終了。参加者も思ったより多く  
延べ三十三名で(た。今回のテキ  
ストは字も大きく、何とか説明につ  
いていけろという初心者向きで、し  
かも内容が佐倉城のことと親しみを  
持てたのがよかったです。



○五月十三日 六月

町外史跡見学会(芝山方面)  
はじめ三月中旬の予定が  
バス故障のため四月に延期。  
農家の方は時代が新しい時期  
と重なり大変でしたが、格子  
の小窓見も兼ねて、ハニワ  
館ではいにしへの古代人と  
の対面・須恵器の自然釉の  
色に感嘆葉舟・光太郎碑  
と訪ね明治人の文学生活の  
様を想う。飯高檜林跡に築  
る老松の根元のひこばえと  
抜き・花壇に植えるといふ  
細川さんの大切に手り紙に  
つづむ姿<sup>カワエイ哉</sup>

蘭立  
タラの芽 雪の下 てんぶら  
うどの葉 タニボホ花  
のけし  
野草のこまえ  
山うどのからし酢みそあえ  
のじるの酢みそあえ  
里のもの木 あり  
筍のやくこみそはん  
野三ツ葉のすまし汁  
アルコール少々

△史跡見学会会計報告

タニホホ  
花は天アメハラ  
五月十三日  
根はキニラ  
六月十日  
反芻

里のもの木 あ之  
筍の火鍋二みごはん  
野三ツ葉のすまし汁

山菜博士の名を高め  
大忙かして活躍された古川さんや夫妻、続いて岩田さんは大忙  
ごろ、金杉さんの手配よろしく全員満腹山菜の王者タランボ  
は言うに及ばず、タンボの花が以外と好評  
のげしのあいものには驚くほど美味！生きびれた智慧みつけたりと台所をうろつき、あぐみと察し  
つまみ食いに駆けめた事深く

いた半かけの梅の実が芽を吹き、半かけの梅の実が芽がなる。ようになつたと云う悲しい伝説の也である。  
少し登ると民家の人口に「親は古酒子は清水との案内板にひかれて進むと古びた井戸らしき所を硯くと清水がこんこんと湧き出している。親が呑むと酒で子が春ぬとたゞの水である。という酒々井の酒の井と同じ伝説の泉である。

の寺、トコモカホトケヤスオケラ、ワレモコウ・イチヤクソウ・キンコウハグマ・トヨノオオ・ウツボ草等々。それぞれ名札もつけられていた。資料館で休憩がてらの見学は伊勢村から出土したナウマン象の復元と酒々井町郷土史研究会発見による日本で二番目に古い鐘の見学に目と光せた。やぶうぐいすの鳴き声に満喫して、今日一番の野草の収穫はトンボ草、帰り路は蘆原の定家死後つる草と化し女の墓石にまづわりついたという定家のづらに詰は続く：

初夏の丘 楽と巡る野草会

青木朝次

序  
総  
風  
土  
記  
の  
丘  
を  
訪ねて

第007号(No.4) 酒々井町郷土研究会会報 昭和53年6月27日(火)

《郷土研行事計画》会員外の方も参加自由です

	7月	8月	9月	備考
古文書学習会 (研修所)	8日(土) 13:30~ 22日(土) 13:30~	5日(土) 13:30~ 19日(土) 13:30~	2日(土) 13:30~ 16日(土) 13:30~	テキストは未定です
郷土史講座 (研修所) 古文書学習会と同日の夜間です。	8日(土) 19:30~ 「千葉県の誕生」 (檀谷健蔵先生)	5日(土) 19:30~ 「江戸時代の武者鑑賞」 (須田茂先生)	2日(土) 19:30~ 「下総の牧場」 (相京晴次氏)	最作成の16ミリ映画を教材に講座を進めます。
	22日(土) 19:30~ 「佐倉藩例について」 (檀谷健蔵先生)	19日(土) 19:30~ 「江戸時代の文化」 (檀谷健蔵先生)	16日(土) 19:30~ 「江戸時代の信仰」 (小倉博先生)	
野草観察会 雨天の場合は研修所にて座談会 PM 1:30~	2日(日) 13:00~ 京成佐倉北口集合 (飯野観音 蒲浦園地)	6日(日) 8:30~ 国鉄酒々井東口集合 (尾上方面)	15日(金) 13:30~ 研修所集合 (根古屋~佐倉東小川成~京成佐倉)	雨天の場合は PM 1:30~ 青年研修所にて国鉄等をみながら研究会を行います。
石碑調査 (役場集合)	16日(日) 13:00~ 本佐倉、上本佐倉	13日(日) 10:00~ 柏木、下船島、伊藤、八木野	10日(日) 10:00~ 馬橋、墨尾上、飯積	雨天決行いたします。

が保城といふ佐々町で八と大なりのし址中と  
行資址のみさ倉と長・日な位たま文化おして百世  
われの保れ城逸・佐根、倉めす化おりてあつ余千葉  
愛存よ此えそ倉古てのに。遺産県のそのと下道橋た年間  
收護し保ての市屋有地この志元のと下道橋た年間  
事集、保護よ。今一に資酒館六発佐此、ものが佐房の居  
しなり研究。て後が一つに月起倉とて唯現倉統の居  
したま等閑、は発本方井於十人、守ら一存城の城

本佐倉城址保存会会員募集

会員登録 年額 一口につき 1,000円  
町教育委員会事務局

同好の方々の入会を希望します(相京)

後記 檀谷からまた玉ねぎも収穫  
見て守りバケツに三杯、インゲンも毎日取りたて  
定で暑い夏を乗り切る覚悟!  
見守り真黒になつて草取りに精出す予

変遷の歴史はかわりあるなしや古木となりて花咲く辛白し  
なりけり 純白の辛夷の花を立ち仰ぐ愛憎は香く遙け

今は古寺 辛夷とは孤独の樹木山中に散在として花のみ

短歌 辛夷 作詞人 創作同人  
押尾克己

10月1日(日) さきたま風土記の丘

郷土研主催の史跡見学会は回を重ねるごとに参加者も増えています。お勤めの方から希望で日曜日の実施の声が多く、今回観行バスを利用して埼玉県行田市の「さきたま……」へ行きます。

一緒に 関宿町の鈴木貴太郎記念館  
吉見の百穴  
川越の春多院  
以上4ヶ所を見学の予定コースです。

会費は 単2,500円(昼食代含む)  
10月1日(日) AM8:00 役場集合  
お申込みは教育委員会 96-1171です

新入会員の紹介  
(53. 6. 25)

- 156 古川俊雄
- 157 福田正吉
- 158 坂入幸子
- 159 諸岡好
- 160 京増治郎一
- 161 高井千代子

新刊 酒々井町史 (五)近代・現代編

価格 4,000円

酒々井町史編さん委員会